

ふくしま農業女子ネットワーク 農女ぴより



楽しみに待つ人の期待に応えたい
と果物作りに取り組む渡辺さん

◆ふくしま農業女子ネットワーク(愛称:百笑一姫♡Fukuがある)農業女子同士の交流・連携を深め、技術の向上を図ろうと、県内の女性就農者や就農希望者65人で構成。福島民報社をはじめ、県内の30企業・団体が「応援団」として登録している。農産品を使

った加工品の共同開発や情報発信、経営力向上、販路拡大などに連携して取り組む。メンバー、応援団となる企業・団体を随時募集している。URLは<http://www.fuku-girl.jp/> 問い合わせは事務局 県農業担い手課 電話024(521)7340へ。



わたなべ
渡辺 佳子さん(須賀川市)

「手伝い」が「人生」に

須賀川市西袋地域は昔からナシ栽培が盛んな地域です。夫はその地に100年近く続く「渡辺果樹園」の4代目で、約500坪の畑で日本ナシ、西洋ナシ、モモを栽培しています。東京ドーム約1個分の広さを、夫と夫の両親、従業員2人の計6人で作業しています。

結婚した20年前は「家業を手伝う」くらいの感覚で農作業に携わりました。主人と一緒に仕事をできることがうれしくて、幼かった子どもたちを連れてレジャーシートにおやつを持ち、ナシ畑でピクニックしながら仕事を教えてもらうことがとても楽しかったのを覚えています。子どもたちの成長につれ、農作業の時間がどんどん長くなり、自然と向き合い

ながら果物を育てる達成感や、収穫できた時の喜び、お客さまの期待に応えられた幸せなど、さまざまな思いを夫婦や家族で共有できるようになりました。いつしか果樹園での仕事は、家業の手伝いではなく、私の人生そのものになりました。

「何歳まで農業ができるだろう」。時々考えることがあります。義父は「農業のいいところは定年がないこと」と言っていました。確かに、いつまでも仕事のできる環境が整っているのが農業の魅力でもあります。「農業ができる」お客さまが満足する商品を提供できる」とは限りません。機械化が進んでも、果樹栽培はまだまだ人力による作業が主です。年齢を重ねたらできなくなる作業も

多々あるのが現実です。

就農から15年目の2015(平成27)年に、義父から事業承継を、主人が4代目の代表となりました。事業を大きくすることも考えましたが、一番大切なのは私たちの果物を楽しみに待ってくれる人たちの期待に応えること。そのことを常に頭に置き、農業を続けられる喜びを感じながら、これからもおいしい果物づくりに努めていきたいと思えます。

プロフィール 郡山市出身。東京の短大を卒業後、国際輸送の会社で働く。2000(平成12)年、結婚を機に就農し、和ナシ、西洋ナシ、モモを栽培。大学生と高校生の2人の娘の母。ホームページ(<https://www.watnakaju.com/>)で情報発信中!